

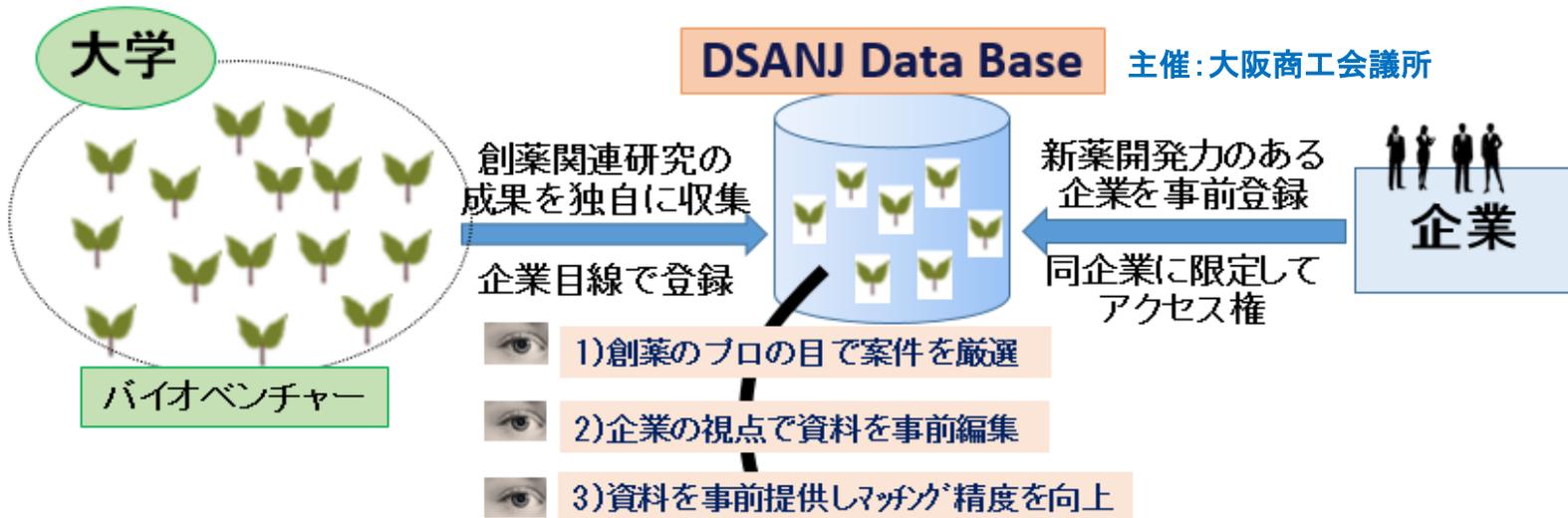
創薬分野におけるアカデミア研究成果の 実用化の現状と課題および解決策案

－DSANJ疾患別商談会を用いた定量的分析結果とその考察－

児玉達樹

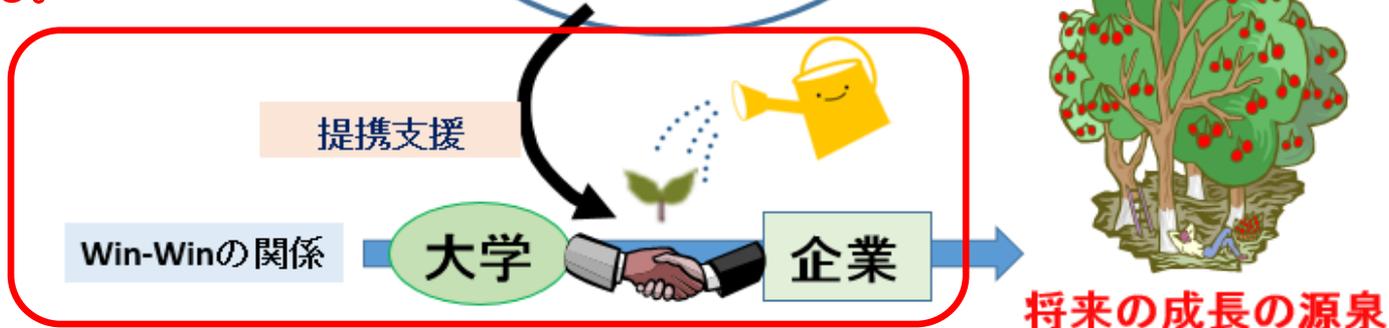
大阪商工会議所 常務理事・事務局長

DSANJ疾患別商談会： 応用研究から開発初期ステージの マッチングを究極化する日本国内の取り組み



現状の課題

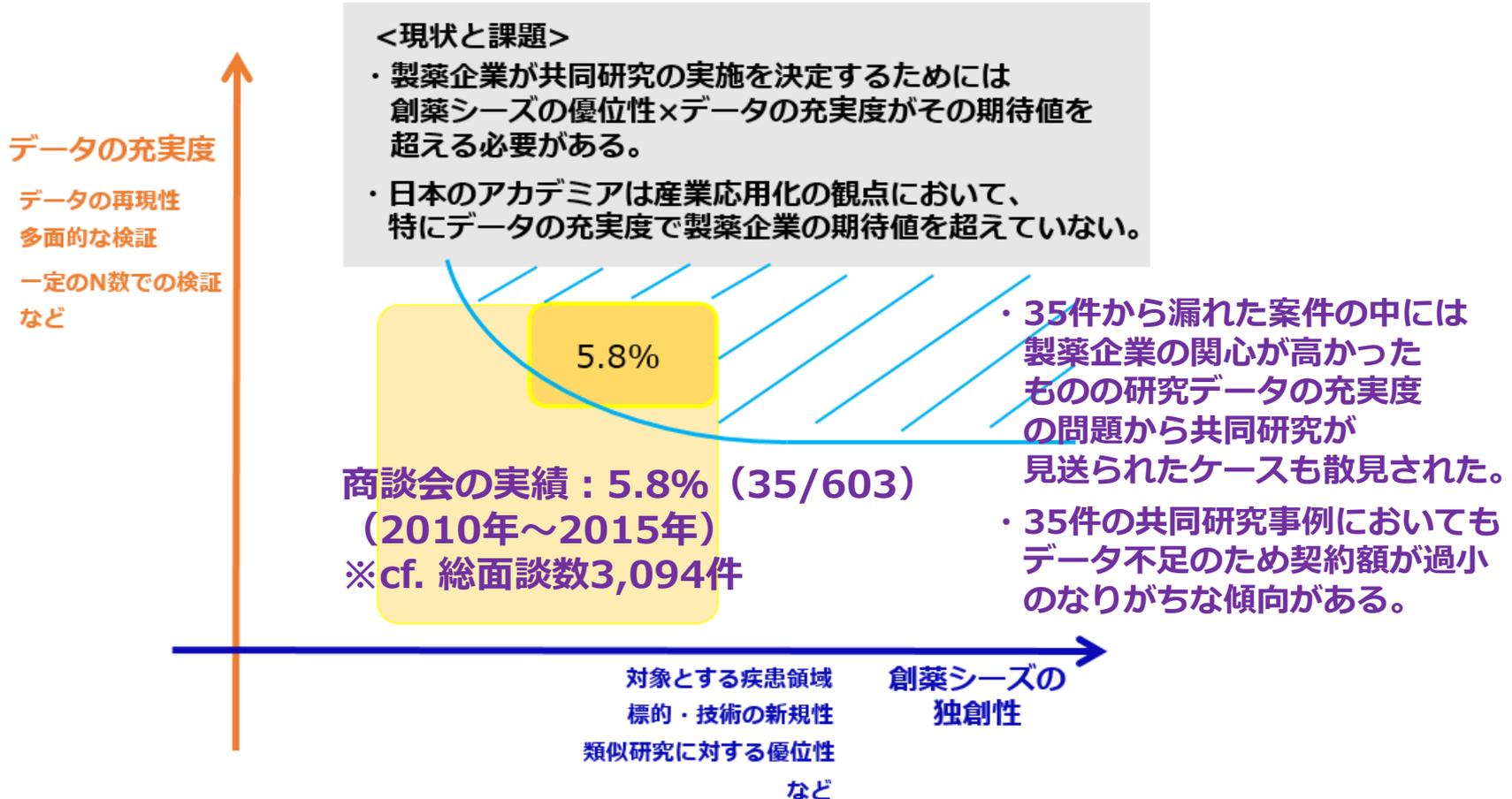
面談までは成立し、研究者間で活発な議論が展開される一方、契約にまで至らないケースが発生している。



※DSANJ (Drug Seeds Alliance Network Japan)
大阪商工会議所が主体となり運営され、製薬企業研究所の研究開発活動を促進するためのプログラム。大学等の創薬シーズ等の研究成果情報を独自に収集し、主に国内の製薬会社に紹介してきた実績あり。現在、加盟企業は72社、国内100以上のアカデミアとも連携あり。2016年度からはAMED、製薬協とDSANJ商談会を共同主催

課題の分析：アカデミアの研究成果の現状

- アカデミアの研究成果は実用化に向けてのデータが不足している（**実用化の可能性が判断できない**）。
- アカデミアは基礎研究を目的として活動しており、実用化の優先順位は相対的に低くならざるを得ない。また実用化にかかる研究資金が潤沢に提供されているわけでもない（**社会構造上の問題**）。



解決策案：応用可能性調査（FS）の実施

- ・ 医薬品産業の活性化のためにはアカデミアシーズの応用可能性調査（FS：Feasibility Study）による不足データの補充が有効である。
- ・ 製薬企業複数社のニーズ・ビジネス判断を基にFS対象案件が選定されることで、より効果的に医薬品産業を活性化することができる。

